

# 平成18年度「専修学校を活用した職業意識の啓発推進」成果報告書

事業名		中学生を対象とした職業体験講座 好きなことを仕事にしよう～ファッションクリエイト&ビジネス体験～	
法人名		学校法人 ミネルヴァ学園	
学校名		目白デザイン専門学校	
代表者	理事長 小嶋 禮子	担当者 連絡先	鈴木 哲也・小田切 朋美 TEL03-3951-3958

## 1. 事業の概要

高等学校による進路指導を受ける以前の中学生の段階で、職業意識を根付かせ、センスや自立心を開花させる。アパレル業界におけるいくつかの職種を疑似体験し、センスや技術を必要とするクリエイターやビジネスのノウハウや仕組みを理解する。当事業の基本方針は、アパレル産業におけるデザイン・製作などの「クリエイション分野」、また、商品知識・企画や情報・流通などの仕組みなどの「ビジネス分野」を疑似体験することである。中学生の時点でそれを体験することにより、高等学校時に模索する進路の選択肢として、自身の新たな可能性を見出すためのものである。

## 2. 事業の評価に関する項目

### ①目的・重点事項の達成状況

本事業の目的である、本格的進路決定以前の中学生の段階で職業意識を根付かせるという点に関しては、事業終了後のアンケートで、ファッション業界に興味を持ち、また具体的な職業体験を実施したことにより具体的に、デザイナーになってみたいという意見もあった。結果、ファッション業界への進路希望を示す反応が増進していることがわかる。また、漠然とファッションを捕らえていた中学生にも、ファッション業界の仕組み、それに携わる職業をビジュアルを多用し説明したことにより、理解を深め職業選択肢の一つとして加えることが出来たのは、社会への見識を広げ、就業意識に貢献している。当カリキュラム実施により、職業意識を根付かせるという点で、事業目的が達成された。

### ②事業により得られた成果

当事業は「職業意識を根付かせ、センスや自立心を開花させる」という目的を達成させるため、講義・職業体験・工場見学と色々な形式での授業を盛り込んだ。1日目の講義ではファッションの基礎的要素を難しい視点ではなく、目で見て分かりやすく伝える事を試み、2日目のファッションの世界の様々な職業に関しては、本校教員ではなく、実際に職業として現場で働いている講師から授業を受けることにより、より職業について見識を広げることができたと解する。3日目の実際の職業体験実習では、実際にファッション業界で使用している什器等を使用することにより、職業への憧れを感じ、4日目の工場見学では、そこに携わる様々な職種の人々を見ることにより、2日目の講義の中で得た職業知識を現実的なものへとつなげることが出来たと考える。すなわち講義の中で知識を得ること、その講義の知識を実習により自身の表現やセンスに発揮できる、創造力・思考力も同時に育成されたと考える。ファッションにおいて自身の個性やセンスを表現することは重要な要因である。今後の人生におけるなにかを選択するシーンに必要な不可欠な感性と個性をも構築し得るものとなった結果より、事業目的である「職業意識を根付かせ、センスや自立心を開花させる」という点を達成できたと解する。

### ③今後の活用

当事業で「職業意識を根付かせ、センスや自立心を開花させる」という目的の取り組みを行い、更なる若年層へのファッション教育への取り組みを強化したいと考える。中学生の時点ではファッション＝服であり、その服を1枚作り上げる過程には沢山のファッションの関連の職業があることは知られていない。今回の中学生の職業意識啓発により成果を感じ、よりファッションを深く学ばばその分だけファッションへの興味や職業への興味を喚起させることが出来る成果をあげられた。高校生の進路選択の時点でこのような知識を得ていれば、もしもファッションの世界を志した時に他の生徒よりも知識・経験・意識の高さをワンランク上からスタートできると考える。

### ④次年度以降における課題・展開

今年度の事業の最大の失敗は日程決定だと考える。今回の事業は新宿区の教育委員会と連携体制を持ち、新宿区公立中学校のスケジュールを参考に日程を決定したが、その前後に中間テスト・学園祭・体育祭・期末テスト等学校行事があり、参加人数が少なくなってしまった。4日間連続の受講を原則としたが、部活等の課外授業もあり、欠席をする中学生もいた。中学生を対象とした事業と前年度の小学生を対象とした事業との差はそのような学校行事を考慮し進めなくてはいけないと実感した。次年度における課題として長期間休みに連続した体験講座を行うべきと考える。

## 3. 事業の実施に関する項目

### ①職業体験講座、講演会の実施

1日目 平成18年10月7日(土) 実施場所:目白デザイン専門学校

【デザイン、ファッションへの興味と知的好奇心の喚起】

●「人間はなぜ衣服を着るのか？」

まず、最初に冒頭で衣服の持つ役割や目的を考えてもらうため、衣服を着ることによって与えられる様々な心理的効果や、暑さ・寒さ・危険回避・職業による特殊効果などの機能面などをパソコンのプレゼンテーションソフトを使用し、映像にて指導を行う。

●「流行はどうしてできるのか？」

ファッション業界における流行が自然発生するものではなく、実は源があり、それらが年二回開催されるコレクションやストリート、テレビや雑誌などによるマスメディアによって生まれるという人為的操作を理解させる。

●「服が出来るまでのプロセス」

一着の服が出来るまでの段階的な作業、マーチャンダイジング、企画・デザイン、パターン作成、サンプル製作、生産といった一連の流れを理解させ、それらに携わる様々な職種の存在を大まかに紹介。これらは、解りやすいイラストを使用し、資料提示装置にて映像にて説明を行う。

●「素材について」

ファッションという大きな括りの中では多種多様な素材があるが、今回は繊維を中心に指導する。分類や特徴、織物・編み物、ハイテクやエコロジー概念などを説明し、その後、希少価値の高いオールドキリムやスザーニなど世界各国の現物のテキスタイル資料を実際に手で触れながら説明を聞くことが出来、素材の面白さ、表現力、手触りなどを体感させる。。

●「色について」

ここでは、色彩についてファッションに固執した内容ではなく、科学的かつ社会的な内容を主とした。色彩の働き、仕組み、心理的・知覚的効果など、パネルを使用しながら説明し、日常生活において見られる具体例などを紹介、問いかけなどを行った。

●「デザインについて」

よく耳にするデザインという言葉の持つ意味を考え、同じモチーフから生まれる様々なデザインバリエーションをパネルにて説明。頭の中で創られたイメージを具体化するデザインという行為における効果や楽しさを理解させる事が目的。

●「パターンについて CAD」

立体を平面である設計図(パターン)におこす内容の説明と、現在幅広く使われているCADシステムの見学。アナログである手書きのパターンをパソコンに取り込むデジタルデザイナー、パソコン上でパターンメイキングを操作出来るCADソフトなどを見学させ、最終的にカッティング付きのプロッターでスカートのパターンを出力して見せる。

2日目 平成18年10月14日(土) 実施場所:目白デザイン専門学校

【職業意識の啓発(ファッション業界の職業別に講義)】

●「ファッションの世界の色々な職業について」(導入)

ここでは、プレゼンテーションソフトによる映像での説明で、ファッション業界の様々な職種を簡単説明を行う。

●「デザイナーの仕事について」

あくまでプロのデザイナーからの視点で、仕事の役割、創造することの喜びや大変さなどを伝え、理解させることを目的とし、具体的な仕事の内容に関しても、ノウハウ・考え方・理論・現場での話を行う。イメージなどの展開の仕方を体験させるため、人型の上にデザイン画を個々に描いてもらう実技も取り入れた。短い時間の中だったが、講義だけではない授業に真剣に取り組んでいる生徒が多く見られた。

「パタンナーの仕事について」

ボディ2体を使用し、原型パターンから様々な展開までをパターン現物を見せながら説明。また、前週のCADシステムの見学で出力したスカートのパターンの4分の1ミニチュアを配り、それをハサミで切り抜いてスカートを作らせた。更にそのスカートに色紙でダーツを展開させ、ミニチュアでありながらも、実際にスカートの出来る仕組みを理解し、実感出来る非常に有効的な手法で授業を行う。

「ファッションコーディネーターの仕事について」

店舗において、全体のイメージ管理やトレンド提案といったようなビジュアルプレゼンテーションについて、説明した。シーズン毎の変化、トレンド情報などの入手法、ターゲットの分類、商品のイメージ展開、陳列法など、細かいカテゴリーも分かりやすく、映像を使いながらの説明。難しい横文字が多く出てきましたが、テキストでの説明が分かりやすかったため、理解度は高かったと解する。

「ファッションアドバイザーの仕事について」

パソコンで映像を使いながら、ショップにおける販売職の意味、売る・提案する・売り場の管理・販促・アフターサービスなど、顧客との接点の重要性を説明し、またファッションアドバイザーになるための資質などを指導した。

「その他のファッション業界の仕事について」

パソコンやビデオといった映像をまじえながらの説明で、業界における川上・川中・川下に位置する業種、服以外にもアパレルに属するアクセサリーや帽子などの雑貨類の存在などを説明。また、メイクアップアーティスト、ネイリスト、モデルなど広義な意味でファッションに分類される職業なども講義の対象とした。

3日目 平成18年11月4日(土) 実施場所:目白デザイン専門学校

【商品知識・企画、プロモーションに関する「ビジネス分野」の体験とデザイン・製作などの「クリエイション分野」の体験】

「マップ・スタイリング実習」

実施対象中学1・2年をふまえ、個々の表現を引き出すため、ジュニア(150センチメートル)のトルソを一人一人体を使用した。イメージ出しからアイテム選び、スタイリング、プレゼンテーション、作品撮影までを行った。また、授業内容・時間を考慮し、円滑かつよりレベルの高いものを提供したかったため、目白デザイン専門学校ファッションビジネス科二年生をアシスタントとして、個々の中学生に一人ずつ担当させ、アドバイスや相談などにも細かく対応した。

事前に授業内容とサンプルを各自に提示していたため、大半の中学生が思い思いのアイテムを持参して、意欲的に授業に取り組んでいた。ファッションに対する意識の高さは、クオリティーよりもむしろ好みやこだわりの強さに見受けられた。

しかしながら、プレゼンテーションについては、思春期の難しい時期ということもあり、大きな声ではっきりと他人に言葉を伝えるということが難しかったように感じる。

この授業に関しては、クリエイション分野とビジネス分野の双方を取り入れた実習体験により、イメージ構成、商品知識などを深め、より職業としてのファッションアドバイザーやスタイリストを身近に感じる事が出来た。

### 「デザイン画実習」

ここでも中学生一人に学生アシスタントが一人つき、アパレル企業のデザイナー役を中学生、マーチャンダイザー役を目白デザイン専門学校ファッションビジネス科二年生として実習を進めた。マーチャンダイザーの持つトレンド情報として、「2007年Spring & Summer」のトレンドブックより抜粋した2つのトレンドイメージの参考資料を用意し、項目（スタイリングイメージ・カラー・素材・アイテム・キーワード）に沿った商品を、相談しながら1着企画させ、その商品に合わせたイメージコーディネートで中学生がデザイン画を描いた。着彩には色鉛筆を使用し、ボディーのベースも4ポーズから選択できるようにした。

この作業に関しては、中学生の手がよく動き、黙々と集中して作業を進めていました。しかしながら、アシスタント学生とのコミュニケーションが難しかったように思った。話し合いながら一つのを製作するという社会性を培うには、まだ少し早い年齢なか。また、個人の技術を磨きたいというような姿勢はありありと見て取れた。出来上がった作品は、トレンド情報に忠実な完成度をみせており、今回の授業の成果としては充分だったと考える。

この授業は、「デザイナーの仕事について」の授業内容をふまえての実技実習授業にあたり、職業としてのデザイナーの社会的役割や、必要とされる能力を理解した中学生により現実に近いスタンスで、具体的に企業デザイナーのシミュレーション体験をしてもらい、その楽しさや難しさを体感し、感覚に職業意識を認識させることを目的とした。

また、自分自身の感性を十分に活用しながらも、「売れるような服」のデザインを目指し、トレンド情報に合わせ、どのように色彩・シルエット・素材・ディテールを構成し、表現を膨らませ、トレンドイメージに添った魅力的な提案が出来るのか、描画表現の可能性を体感出来るものとした。

時間に制限があったため細かな評価は出来なかったが、作品を遠目から見ることで、自分のデザインがイメージに近いものかの確認をし、半年後の春夏の市場への興味を持ってくれれば良いと考える。

4日目 平成18年11月11日（土） 実施場所：オオタニット株式会社 目白デザイン専門学校

【将来への関心の高まり（工場見学、将来を見据えたキャリアプラン制作）】

### 「工場見学」（オオタニット株式会社）

三日目までは、校内での講義と疑似体験を中心とした内容だったが、最終日四日目で実際のアパレル企業を見学し、そこに携わる人々の仕事や現場を見ることで、より強い関心を持ってもらうことが目的である。

オオタニット株式会社では、企画・デザイン・パターン、サンプル製作までを行っている現場を見学させた。

サンプル仕様書から、CADでパターンを作製している様子、サンプルの縫製などを見た後、実際にニット地に型紙を当てて、裁断することをまずは体験させた。ニットはやはり織物よりは伸縮するため、裁断が難しく、苦労している中学生もいたが、意欲的に取り組んでいた。また、工業用ミシン、ロックミシンなどの体験も出来、如何にしてサンプルが出来上がるのかをより身近に感じたのではないだろうか。最後には御厚意でラインストーンを圧着機で取り付ける作業を体験することが出来、中学生の世代には、とても楽しかったようだ。数種類のセットから思い思いの好みで取り付けて、お土産としていただくことも出来たので、形にも残り非常に有意義体験だったと思われる。

「ファッションの職業に就くために・・・」

ここでは、ファッション業界で働くため、どのような心構えで取り組んで行くべきか、精神的指導を行った。インターネットの普及により、圧倒的な情報を若年層から得ることが出来るようになり、その反面、モラルに欠ける情報も入ってくる。また、メール・コミュニティ・掲示板などの普及により、生身の人間との対話が出来ない人間が増加している危惧もある。最終的にはファッション業界も人と人との繋がりで、人間関係や社会性が重要だということである。

また、中国を中心としたアジア諸国での大量生産型ブランドが増加したために生まれる没個性、TPOの無理解などを説明した。これにより、現代社会とファッションの密接な関係を日常的に考えてもらいたう目的で講義を行った。

## まとめ

印象に残った授業をアンケートした結果は、一日目は、「流行はどうしてできるのか?」「素材について」がもっとも多く、意外にも「パターンについて CAD」のようなデジタル世代の子が好みそうな内容ではなかった。「流行はどうしてできるのか?」については、日常的に流行というものに関心があり、身近に感じていた疑問などが理解できたためとも考えられます。二日目は、「その他のファッション業界の仕事について」がもっとも多く、これは今の中学生がヘアやネイル、またメディアで取り上げられている有名モデルなどへの興味や憧れなどからの結果だと解する。デザイナー、パタンナーのようにTVや雑誌などのメディアにあまり出てこない職業よりも、視覚的な影響が強かったと考える。三日目は、「マップ・スタイリング実習」「デザイン画実習」ともに印象に残ったという結果だった。この授業においては、自分自身で創造することにより生まれる、他人の個性の違いを実感し、自身のセンスを発揮出来る場として、意欲的に取り組めたという結果だと考える。最終日、四日目は、「工場見学」(オオタニット株式会社)。実際に服が出来ていく過程、そこに携わる様々な職種の人々を見ることにより、講義の中で得た知識を現実的なものへと繋げることが出来た表れだと考える。また、そこで行われている作業の一部を職業体験したことにより、その難しさや楽しさ、服の出来上がる仕組みなどを身近に感じる事が出来たのだと

## ②その他

当事業の対象者は、東京都新宿区に在住の中学生。公立中学校のカリキュラムを考慮し、10月と11月の土曜日、4回で行った。新宿区教育委員会の協力を得て、新宿区立中学校を經由して広報し、参加者を募集した。参加生徒10名で実施。

具体的な講義方法としては、中学生が目で見ても触って理解しやすいよう、ビジュアル機器・実物を多用し、講義を進めた。